

説教題：「OIC 信仰声明 第4項：私たちは聖霊を信じています。」

鍵となる聖句: ヨハネ 16:7-8 – しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。⁸その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。

皆さん、おはようございます。皆さんと再びお会いできて嬉しいです。昨年、教会の「信仰声明」にあるキリスト教の教義について、説教シリーズを始めました。この声明文には10の項があり、私は項ごとに10回の説教をする予定です。今日は、「信仰声明」の第4項、「聖霊の働き」についてお話しします。

イエス・キリストに従う者として、神から人類への啓示である聖書に忠実であり続けるために、私たちが拠り所としなければならない重要な教義があります。聖書のページには、神がこの世界を創造され、私たち人間とどのように関わっておられるかが書かれています。また、神ご自身と御子イエス・キリスト、そしてすべての信者に宿っておられる聖霊について学びます。聖書では、罪とその解決策、そして創造主との正しい関係を回復する方法について学びます。私たちのようなキリスト教の共同体は、「信仰声明」と呼ばれるものを作成し、自分たちが信奉する基本的な教義を概説しています。大阪インターナショナル・チャーチの「信仰声明」は、私たちが福音主義やプロテスタントの伝統に基づいた歴史的なキリスト教の正統派であることを示しています。

私はこのシリーズで、私たちが拠り所とする基本的な教義と、これらの教義が聖書のどこで支えられているかを概説することに着手しました。これまで、私たちの「信仰声明」の最初の3項を取り上げましたが、今日は4段落目を取り上げたいと思います。復習として、最初の4つの項を読んでみたいと思います。

第1項:

私たちは、旧約、新約聖書の両方が、原文に誤りのない、神の靈感による神の言葉であり、人類の救いという神の御心の完全なる啓示であり、すべてのキリスト者の信仰とその人生に対して、神聖かつ最高権威を持つものである、と信じる。 テモテへの手紙 第II 3:16。

第2項:

すべての創造主であり、とこしえに完全で、永遠に三位一体（父なる神、御子、聖霊）である、唯一の神を信じる。 ペテロの手紙 第I 1:2。

第3項:

イエス・キリストが、聖霊により宿り、処女マリアからお生まれになった、まことの神であり、まことの人となられた方であると信じる。また、聖書の御言葉どおり、この方は、私たちの罪のために、完全かつ成し遂げられたささげものとして、十字架上で亡くなられ、さらには、死からよみがえり、天へ昇り、大能者の御座の右に着座され、今、私たちの大祭司、あがない主であると信じる。 ルカの福音書 1:34-35、 テモテへの手紙 第I 2:5、 ヘブル人への手紙 8:1-2。

第4段落:

聖霊の働きは、主イエス・キリストに栄光を帰すためのものであると信じる。この時代にあつて、聖霊は、人に罪を認めさせ、罪ある者を新生させ、神を信じる者がその信仰にふさわしく生き、働きをなすことができるように、その内に宿り、導き、教え、力を与える方である、と信じる。 ヨハネの福音書 16:7-14。

聖霊の働きについて詳しく説明する前に、三位一体の教理について少し復習しておきたいと思います。神は3つの異なる位格として存在し、それぞれが同じ本質を持ち、それぞれが永遠に存在すると言います。古代の教会でも現代でも、この教理を受け入れない人たちがいて、神の子イエス・キリストは永遠ではなく、ある時点で創造されたものだという人たちがいます。また、聖霊は人ではなく、神から発せられる何らかの非人格的な力であるという人々も、昔も今も存在します。この思想の現代的な現れとして、エホバの証人の中に見ることができるので、彼らは真のキリスト教徒ではありません。

人々は聖霊を人格として理解するのに苦労し、中にはその考えを完全に否定する人もいます。以前、ある説教で聞いた話を紹介しよう。エホバの証人の高位にあった人が、それを拒否して、正統なキリスト教を受け入れたという話である。その人が最終的にエホバの証人を拒否した理由は、使徒の働き 5章に書かれている聖霊についての記述にあると言いました。その人は、聖霊は人ではなく、神から発せられる非人格的な力のようなものだと教えられていたのです。しかし、使徒言行録 5章のアナニヤとサツピラの物語にあることが気になったのです。その話では、アナニヤとサツピラが共謀して、ある不動産を売却してそのお金を教会に寄付し、売却したお金のすべてを寄付すると言いながら、実際にはそのお金の一部を密かに控えて、教会を欺こうとするのです。神は欺きを好まれないので、ペテロに真実の事実を明らかにされました。3節で、ペテロは「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて…」と言います。4節で、ペテロは「あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ」と言っています。アナニヤは神を欺きました。アナニヤは聖霊を欺きました。非人格的な力をどうして欺くことができるのでしょうか。誰に対しても欺いてはいけませんが、人間を欺くことは出来ます。サツピラがペテロに会いに来た

とき、彼女は夫がしたのと同じ嘘をつきました。ペテロは、9節「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。」と言いました。人でないものを、どうして偽りの主張をして「試す」ことができるのでしょうか。それは人でなければできないことです。先ほどお話ししたエホバの証人の高位の人は、聖書の資料を見た時目が開かれ、聖霊が人格を有していることに気が付き、そのグループの教えを拒否したのです。

私に印象付けたもう一つの聖句があります。コリント人への手紙第一 12 章を見ましょう。パウロが聖霊の賜物についての議論を始めるところです。4-6 節でこのように宣べています。同じ神、同じ主、同じ霊。すべての人が等しく賜物をいただきます。6 節で、父なる神、5 節で主イエス・キリスト、4 節で聖霊、それぞれが、賜物を分配する働きをしています。

そして聖霊の賜物の紹介の最後に、使徒パウロは 11 節でこのように言っています：しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」どのようにして、賜物が分配されるのかに注意してください：聖霊の御心のままに。どのように賜物が与えられるかは、聖霊が選びます。聖霊は、非人格的な力ではありえません。なぜなら、聖霊は選択しているからです。…聖霊には意志があります。従って聖霊は人でなければなりません。聖霊は、父、子、御霊と言う三位一体の中の同等のメンバーです。

さて、今日のメッセージのメインテーマである、私たちの生活における聖霊の働きに戻りましょう。OIC の「信仰声明」の第 4 項をもう一度引用します。

聖霊の働きは、主イエス・キリストに栄光を帰すためのものであると信じる。この時代にあって、聖霊は、人に罪を認めさせ、罪ある者を新生させ、神を信じる者がその信仰にふさわしく生き、働きをなすことができるように、その内に宿り、導き、教え、力を与える方である、と信じる。ヨハネの福音書 16:7-14

ここで、「信仰声明」にある聖霊の主な活動を繰り返してみます。第一に、聖霊の働きは、主イエス・キリストを賛美することです。そして、現在の教会時代において、聖霊は、人に罪を認めさせ、罪人を再生させ、信者のために、聖霊はクリスチャンに宿り、指導し、神的生活と奉仕のために力を与えるという、いくつかの重要な任務を担っているのです。

私たちの信仰声明の第 4 項では、ヨハネによる福音書 16 章 7 節から 14 節を参照しています。最後の晩餐の直後、イエスが十字架にかけられる前夜、イエスはヨハネによる福音書の 14 章から 16 章までの長い講話で弟子たちに語られます。16 章 7 - 14 節でイエスはこのことを言われます - しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。⁸その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。⁹罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

¹⁰また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。¹¹さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。¹²わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。¹³しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。¹⁴御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。

この箇所、イエスは弟子たちに、ご自分が離れるときに"助け主"を遣わすと語っています。この言葉はギリシャ語では *Paraklētos* (*παράκλητος*) といい、訳すのが難しい言葉です。他の英語版聖書では、この語を「慰め主」「弁護者」「相談役」「励まし手」「仲保者」と訳しています。基本的には、この言葉は「助けるためにそばに呼ばれる人」という意味です。ヨハネによる福音書 14 章 16 節で、イエスはこう言っています。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」もう一人の助け手。ここで「もう一人」という意味のギリシャ語は *allos* で、「同じ種類のもう一人」という意味です。ここでギリシャ語のヘテロスという言葉を使うことも可能だったかもしれませんが、代わりに書かれているのはアロスで、イエスが遣わす助け手は、自分とは異なるが自分と同じ種類の別の人であることを示しています。ここにも、聖霊が神であり、父なる神、子なる神と同じ本質を持ちながら、両者とは異なる三位一体の存在であることが示されています。ここでイエスが語っているのは、イエスは弟子たちのもとを去りますが、イエスと同じ種類の者が代わりに弟子たちを導き、福音の働きのために力を与えてくれるということです。イエスが地上の肉体をお持ちの間は、一度に一つの場所にしかおられません。御霊を遣わして弟子たちを宿して力づけることによって、彼らは働いているさまざまな場所で宣教の業を行うことができます。このため、ヨハネ 14 章 12 節で、イエスはこう言うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。」わたしは父のもとに行くからです。キリストに従う者が行う業は、イエスが地上時代にユダヤやガリラヤで行ったことよりも大きな範囲に及ぶでしょう。

使徒の働き 1:4-5 には、イエスが復活後、弟子たちに語った最後の言葉が記されています。-彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。⁵ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」8 節で - 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」その言葉を語った後、イエスは天に昇られました。そして 10 日後のペンテコステの日に、大勢のキリスト教信者の上に聖霊が降り、ペテロが最初の説教をし、何千人もの人々がキリストを信じ、洗礼を受けました。それは、エルサレムから地の果てまで福音が広がる始まりでした。私たちは

この書を「使徒の働き」と呼んでいます。ある説教者は「聖霊の働き」と呼んだ方が良いと言います。なぜなら、この本はキリスト教時代の初期に、聖霊が使徒たちを通して福音を広めるために働かれた物語であるからです。

ヨハネの福音書 16 章に戻りましょう。12-13 節で、イエスはこうおっしゃいます 「わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。¹³しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」 イエスが「聖霊がこの人たちをすべての真理に導き、これから起こることを明らかにする」と言われたのは、主に聖霊が使徒たちのメッセージを鼓舞し、彼らを導いて新約聖書を書かせたことに言及しています。また、聖霊は私たちキリストに従う者一人一人をも照らし、導くことができることを意味しています。ローマ 8:14 とガラテヤ 5:18 は、私たちが「聖霊に導かれる」ことができると言っています。

ヨハネ 16:14、イエスは聖霊について語り続けています: 「御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」 聖霊の働きについて、私たちの信仰声明文の第 4 項には、まず、「主イエス・キリストに栄光を帰すため」と書かれています。ESV スタディバイブルに収録されているエッセイの一部を紹介しよう。:

「聖霊の働きは軽視されがちです。その理由は、聖霊の主要な役割の一つは、過去、現在、未来のキリストの国と救いの業を証しすることによって、キリストを讃えることだからです...

(ヨハネ 16 : 13-14)。聖霊の目的はキリストを賛美することですから、この目的が達成される時、聖霊は栄誉を受けます。御霊の最も深い願いは、御子が尊ばれることです。イエスは御霊の働きの焦点であり、信者はキリストを称えるために御霊の助けを頼ることによって、御霊を称えるのです。聖霊は御父の栄光のためにキリストの仕事を進めるために働き、神の民に同じことをするように力を与え、油を注いでくださるのです。

図に見られるように、聖霊は 4 つの基本的な方法でキリストを栄光あるものとしています。

聖霊はどのようにキリストを輝かせるか :

聖霊が聖書を照らす (キリストの中心性)	ルカ 24:27, 44-48
御霊は福音宣教 (キリストの宣教) を力づける	使徒の働き 1:8
御霊は再生 (キリストにある新しい命) をもたらす	ヨハネ 3:5-8
御霊は信者を聖別する (キリストの似姿に変えられる)	ローマ 8:29; ヨハネ第一 3:2

人間は、自分が崇拝するものに似てきます。御霊は、人々がキリストのようになるように、キリストへの崇拝を促進するように働かれます。このように、聖化は神に栄光を帰すことから流れ出るものであり、その両方が信者の生活の中で御霊によって成し遂げられるのである。」

(抜粋 : Crossway. "ESV® Study Bible".)

最後の段落が好きです。「聖霊は、人々がキリストのようになるように、キリストを崇める気持ちを育てるように働かれます。それはクリスチャン生活を送る上での基本的な目標ではないでしょうか?キリストのようになることです。

もう一度、その表を見てみましょう。「聖霊がどのようにキリストに栄光を帰するのか」第一に、聖霊は聖書に啓示の光を与える - 聖霊は私たちが聖書を理解するのを助けてくれます。先ほどの表では、復活直後のルカ 24 章で、イエスが旧約聖書の聖句がどのようにイエスを指し示しているかを弟子たちに示し、彼らの心が聖句を理解するために開かれる、といういくつかの節を引用しています（ルカ 24:45）。

第二に、御霊は福音宣教を力づけるものです。使徒の働き 1 章 8 節で、イエスは弟子たちに、彼らは御霊を受け、エルサレムから地の果てまで証人となる力を与えられると言われたことをすでにお話ししました。

第三に、御霊は、人を新たにします。これについては、もう少し詳しく述べます。

第四に 御霊は信者を聖別します（キリストの似姿に変える）。私たちには、他の人々に良い知らせを伝えるという任務があるだけでなく、一人ひとりが自分自身を見つめ直し、まだ生活の一部になっているかもしれない悪い習慣や罪を取り除く必要があります。これは生涯続く聖化の過程であり、私たちの目標はキリストの姿に変えられることです。

少し話を戻しますが、この表の 3 番目の項目は、ヨハネ 3:5-8 の「再生」です。Lexham Survey of Theology から引用させていただきます。

人間にとって再生とは、罪による道徳的人格の墮落に対する答えです。それは神の国に参加するために不可欠なものです（ヨハネ 3:3）。回心するとき、神は信者に新しい命とキリストにある新しいアイデンティティを授けられます。この出来事は非常に強力なので、ヨハネはこれを「上からの」新生と言い（ヨハネ 3:3）、パウロはこれを「新しく造られた者」と呼んでいます（2 コリ 5:17）。どちらの場合も、この変化は聖霊によってもたらされ、聖霊は信者のうちに住まわれます。聖霊によって生まれた者は、死すべき命の延長ではなく、永遠の命、つまり神ご自身の質の高い命を受けるのです。そして、御霊の内なる働きを受けた者は、復活の時に御霊が肉体を新しくしてくださることを期待することができます。

再生は出来事ですが、意識的な体験である必要はありません。再生が起こる正確な瞬間は、神だけが知っています。なぜなら、回心は福音の招きに対する人間の反応であるのに対し、再生は回心に続く神の再生の働きであるからです（ほとんどの見解において）。

(Lexham Survey of Theology, ed. Mark Ward et al. マーク・ウォード他、Bellingham, WA: Lexham Press, 2018)。

[最後の文章をもう一度。回心は福音の招きに対する人間の反応であるのに対し、再生は回心に続く神の再生の働きであるからです。]

ヨハネの福音書 3 章 3 節を読んでみましょう。 - イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。

5 節 - イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることはできません。

この二つの節は互いに平行しています。新しく生まれること（上から生まれること）は、水と御霊から生まれることです。これは新しい霊的な誕生であり、神の国に入る唯一の方法です。

この「水と御霊から生まれる」という言葉は、どういう意味なのでしょう。ある人は、これは洗礼のことを指しているのではないかと考えていますが、イエスが指し示しているのは洗礼の行為なのでしょう。もしそうなら、イエスはもっと直接的にそう言われなかったのでしょうか。この「水と御霊から生まれる」という言葉は、6節にあるように、肉体的な誕生とそれに続く霊的な誕生を指しているのではないかと考える人もいます。私も以前はそう考えていましたが、今はそれは正しくないと思っています。5節に書かれているのは、水と御霊の両方による一回の誕生です。

おそらく、イエスは旧約聖書のイメージを暗示しているのでしょう。エレミヤ 31:31-34、エゼキエル 37:36、エゼキエル 36:25-27 に書かれている新しい契約の約束を暗示している可能性が高いです。ユダヤ人は前の契約に不誠実であったので、神は彼らをバビロンに追放されました。しかし、預言者エレミヤとエゼキエルは、その間に新しい契約の約束を民に伝えました。

この約束の一部をエゼキエル 36:25-27 で読ませていただくと、神様はこのように言っています。－「わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、²⁶あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。²⁷わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。」

ここでは、罪や不忠実から清められることの絵として、水が象徴的に用いられている。バプテスマのヨハネやイエスとその弟子たちが後に行ったバプテスマも同様に、人の悔い改めと罪からのきよめを象徴しています。ですから、ヨハネ 3:5 にバプテスマを見ることは全く間違いではありませんが、この節の背景はおそらくこのエゼキエル書にあることを覚えておいて下さい。罪からのきよめのための水かけ、そして、人々の中に新しい心と新しい霊を与え、聖霊に包まれて主のおきてと儀式に歩むことを約束する象徴的なものです。2週間前のクリスマス・メッセージで、東方の博士たちとユダヤの王を捜す人々についてお話ししましたが、この新しい契約に異邦人が加わるようになったことをお話ししました。創世記 12 章のアブラハムとの約束は、地上のすべての家族に祝福をもたらすものであり、イエスは使徒たちに「行って、すべての国の人々を弟子にきなさい」と命じられたのです。私たち全員がこの新しい契約に参加し、罪を清められ、新しい心と新しい霊を与えられる道が開かれているのです。そして、神の聖霊が私たちのうちに宿り、私たちが神の方法に従って忠実に生きることができるようになるのです。これは、私たち全員に対する神の願いです。

聖霊の働きについては、まだまだ述べたいことがたくさんありますが、今日はここでやめておきます。それは、私たちが神を敬う生き方をし、御子の姿に変えられ、教会で福音を世界に伝える奉仕をする力を与えられるようになるためなのです。